©2020 映画「風の電話」製作委員会

風の電話　今だから、伝えたい

東日本大震災で家族を失った高校生ハル。広島から故郷の岩手県大槌町に戻る旅路の中、心に傷を背負った彼女が“希望”を取り戻すまでを描いた感動のロード・ムービー。

17歳の高校生ハル（モトーラ世理奈）は、東日本大震災で家族を失い、広島に住む伯母、広子（渡辺真起子）の家に身を寄せている。心に深い傷を抱えながらも、日常を過ごすハルだったが、ある日、広子が倒れてしまう。自分の周りの人が全ていなくなる不安に駆られたハルは、あの日以来、一度も帰っていない故郷の大槌町へ向かう。広島から岩手までの長い旅の途中、彼女の目にはどんな景色が映っていくのだろうか―。

憔悴して道端に倒れていたところを助けてくれた公平（三浦友和）、今も福島に暮らし被災した時の話を聞かせてくれた今田（西田敏行）。様々な人と出会い、食事をふるまわれ、抱きしめられ、「生きろ」と励まされるハル。道中で出会った福島の元原発作業員の森尾（西島秀俊）と共に旅は続いていき…。そして、ハルは導かれるように、故郷にある＜風の電話＞へと歩みを進める。家族と「もう一度、話したい」その想いを胸に―。

■第70回ベルリン国際映画祭 国際審査員特別賞（ジェネレーション14プラス部門）受賞

2011年に、岩手県のガーデンデザイナー・佐々木格氏が自宅に設置した＜風の電話＞。死別した従兄弟ともう一度話したいという思いから誕生したその電話は、「天国に繋がる電話」として人々に広まり、今も多くの人々が訪れている。映画『風の電話』は、この電話をモチーフにした初めての映像作品。本作の主人公ハル役に、近年の活躍が目覚ましい注目の女優、モトーラ世理奈。ハルと行動を共にする森尾役には西島秀俊、旅の途中でハルと出会い彼女に影響を与える重要な人物たちに三浦友和、そして西田敏行らの日本映画界を代表する名優たちが脇を固める。『2/ デュオ』『M/OTHER』,『ライオンは今夜死ぬ』など日本だけでなく、ヨーロッパで圧倒的な評価を受けている諏訪敦彦監督が脚本なしの即興演出で現場の空気感まで切り取り、まるで俳優たちと共に旅をするような、唯一無二の映画体験が観る人々の人生にそっと刻まれる。

CAST

モトーラ世理奈　西島秀俊　西田敏行（特別出演）　三浦友和

渡辺真起子　山本未來　占部房子　池津祥子　石橋けい　篠原　篤　別府康子

STAFF

監督：諏訪敦彦　　脚本：狗飼恭子・諏訪敦彦　　音楽：世武裕子

2020年／日本映画／劇場公開日：2020年1月24日／©2020 映画「風の電話」製作委員会
カラー　ビスタサイズ16:9　本編139分

【おらおらでひとりいぐも】
私は私らしく一人で生きていく

昭和、平成、令和をかけぬけてきた75歳、ひとり暮らしの桃子さん。ジャズセッションのように湧き上がる“寂しさ”たちとともに、賑やかな孤独を生きる――

1964年、日本中に響き渡るファンファーレに押し出されるように故郷を飛び出し、上京した桃子さん。あれから55年。結婚し子供を育て、夫と2人の平穏な日常になると思っていた矢先…突然夫に先立たれ、ひとり孤独な日々を送ることに。図書館で本を借り、病院へ行き、46億年の歴史ノートを作る毎日。しかし、ある時、桃子さんの“心の声＝寂しさたち”が、音楽に乗せて内から外から湧きあがってきた！ 孤独の先で新しい世界を見つけた桃子さんの、ささやかで壮大な1年の物語。

田中裕子・蒼井 優・濱田 岳・青木崇高・宮藤官九郎、5人全員が“桃子さん”?!
『南極料理人』『モリのいる場所』の沖田修一監督による、ユーモアあふれる人間賛歌。

原作は、55歳で夫を亡くした後、主婦業の傍ら執筆し63歳で作家デビューした若竹千佐子の同名小説。本作を発表するやいなや「これは“私の物語”だ」と絶賛を浴び、芥川賞・文藝賞をW受賞した。シニア世代の圧倒的支持を得たベストセラーをこれまで数々の映画賞を受賞してきた沖田修一監督が映画化。15年ぶりの主演となる田中裕子をはじめ、蒼井優、東出昌大、濱田岳、青木崇高、宮藤官九郎ら豪華キャストが集結し、巡る時代と季節を縦横自在に描く。新しい日常を生きる今――不安や寂しさを受け入れて力強く歩みを進める桃子さんの姿が優しく響く、可憐でたくましい唯一無二の感動作が誕生した。

今秋ロードショー！ 桃子さんが映画館でお待ちしております。

劇場内での映画の撮影・録音は犯罪です。
映画盗撮や違法配信は
www.eigaho.org
0120-560098

©2020「おらおらでひとりいぐも」製作委員会